

参議院我が国及び国際社会の平和安全法制に関する特別委員会

2015年8月21日 質疑（集中審議「我が国の安全保障政策と政府の基本姿勢等」）

質問骨子（質疑時間は20分）

猪口邦子

冒頭、平和安全法制の法的安定性の重要性に関する政府認識について、私の理解を簡潔に述べ、平和安全法制の質問に入る。

1. 平和安全法制の背景について（1960年、岸総理は日米安保条約を改定して米国の日本防衛義務を明確化した。冷戦後の現在、脅威の質的变化のなかで、日米同盟の信頼性と実効性を高めることの重要性が平和安全法制の背景としてある）（総理）
2. 同盟の信頼性について（日本の限定的な集団的自衛権の法整備が、我が国防衛のための日米同盟の信頼性と実効性の向上に資すると考える）（総理）
3. 日本防衛のための日米連携強化について（平素から不測の事態に至る全ての段階で日米が共同して有効に対処できる態勢を示すことが、日本への攻撃を思いとどまらせるという抑止力につながるので、戦争をする法案ではなく未然防止の法案である）（防衛相）
4. 対外発信について（総理は憲法の平和主義の下で懸命に努力していることを対外発信すべきである。世界の論調は、平和主義下での努力と理解し、共感している）（総理）
5. 外交力強化と平和国家像の発展（平和安全法制と外交力強化は一对のものであり、今後も平和国家日本のブランドが強化されるよう、ODA、軍縮外交、防災外交など日本が限定的ではなく世界を助けることができる分野で日の丸外交を強化すべき）（外相、総理）

（了）